

文部科学大臣表彰受賞決定

～平成29年度子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）～

子どもが積極的に読書を行い、意欲を高めるような特色ある優れた読書活動を行っている学校・図書館・団体（個人）に対し、その実績をたたえるため、この度、標記表彰が行われます。

この表彰は、平成13年12月施行の「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受け、平成14年度から文部科学省が実施しているものです。

平成29年度に受賞した本県関係の学校・図書館・団体（個人）は、下記のとおりです。

記

1 受賞した学校・図書館・団体（個人）

（1）学校

- ① 合志市立西合志東小学校（児童数1121人）
- ② 八代市立昭和小学校（児童数47人）
- ③ 熊本県立天草高等学校（生徒数712人）

（2）図書館

- ① 大津町立おおづ図書館

（3）優秀実践団体（個人）

- ① 和水お話の会

- ・詳細は別添資料を御参照ください。
- ・別添資料の役職名等は、平成28年度時のものです。

2 表彰式

（1）期 日：平成29年4月23日（日曜日）

子ども読書の日記念“子どもの読書活動推進フォーラム”にて

（2）場 所：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター

（3）時 間：午後1時から午後4時30分（予定）

問い合わせ先

熊本県教育庁教育総務局 社会教育課
家庭教育支援班 担当 有馬、田原
（内線 6696）

TEL：096-333-2698

受賞した学校・図書館・団体の取組内容について

(1) 学校

① 合志市立西合志東小学校（児童数：1121人 校長 釘山 正二郎）

【取組内容】

「合志市子どもの読書推進活動計画」に示された、学校とPTAや地域が連携して、子どもが日常的・継続的に本に親しむ場を設定して読書意欲を高めることを方針としている。

平成2年からPTAの図書委員と地域ボランティア総勢101名による「本好きな子どもを育てる継続的活動」を実施している。また、全職員による「わたしのおすすめの本」を紹介する図書館便りの発行、朝と昼の読み聞かせ等の取組を行い、児童を読書に誘う様々な活動を行っている。結果として、平成27年度は1か月での一人当たりの貸し出し数が9.7冊となり、「1か月に5冊本を借りて読もう」の数値目標を大きく上回った。

また、県立教育センターとの共同研究で、各学年でどの学習の際にどんな図書資料を活用するのかという「調べ学習一覧表」の作成や、読書した本の名前や感想を目に見える形で貯めていく「読書貯金」等、読書への興味・関心を喚起する取組を行うことにより、学習を深めていくことと同時に情報活用能力の向上にも繋がっている。



6年生による読み聞かせ



担任との読書の様子

② 八代市立昭和小学校（生徒数：47人 校長 森下 和代）

【取組内容】

平成24年度より、児童会活動を中心にPTAや八代市立図書館と連携した様々な取組を行っている。

その一つに「子どもによる積極的な読書活動」がある。読書旬間を6月と11月に設け、ブックハート委員会児童による学級への読み聞かせを行っている。他にも、本に関するクイズ大会（ハッピーブッククイズ大会）や読んだ本によるビンゴ大会等、児童が主体となる活動も多く行われている。

「読書活動推進の特色ある取組」として、高学年児童から低学年児童への読み聞かせ、学校図書館支援員によるお昼の放送の朗読、保護者による読み聞かせ等を行っている。また、平成27年度からは「父ちゃん読み聞かせ」を年に2回程度実施している。

その他、図鑑や辞書を使用した図書館の活用、国語で学習した作家の本のコーナーの設置等教科等学習への学校図書館の活用の工夫もなされている。

これらの取組により、平成27年度には児童一人当たり年間165冊と平成25年度の約3倍の読書冊数となり大きな成果を出している。また、国語科「読む能力」の観点の問題の正解率が3年連続向上したり、県文集「ゆめ」において全学年が入賞を果たしたりする等、学習面においても大きな成果で出ている。



父ちゃん読み聞かせ



高学年児童から低学年児童
への読み聞かせ

③ 熊本県立天草高等学校（生徒数 712 人 校長 前田 三千治）

教育目標達成のための具体策として「図書館教育、読書指導の充実」を掲げ、司書教諭、学校司書が連携し、情報図書部を中心に図書館の活用を積極的に行っている。

平成14年度からは始業前10分間の「朝の読書」活動を毎日実施しており、落ち着いた雰囲気の中で読書を行うことにより生徒の読書習慣の定着を図っている。そのような取組により休み時間や放課後に本を借りる生徒も増加傾向にあり、平成27年度には県平均（年間7冊）を大きく上回る一人当たり年間19.5冊の貸出し冊数となった。学校評価アンケートの中でも、生徒、職員ともに4点中3.4点と評価も高く「朝の読書」の教育的効果が表れている。

また、生徒図書委員会活動も活発で、月1回広報誌「らいぶらりい」の発行、生徒昇降口での図書情報の掲示や、教室棟での新書レポートの掲示等、図書館の利用の増加に貢献している。さらに、図書館内に展示コーナーを設置し、時事問題や学校行事等の展示、四季を意識した館内レイアウト等生き生きとした図書館づくりに努めている。

その他、保健、国語、英語、家庭等授業における利用を通じ、「知る・調べる」読書へと幅を広げる取組を全職員が一丸となり取り組んでいる。図書館の利用を増やすことで、小論文や面接対策、表現力や語彙力の向上など受験対策としても大きく貢献している。



「らいぶらりい」作成状況



職業調べ用コーナー

(2) 図書館

① 大津町立おおづ図書館（館長 大隈 寿美代 職員数17人）

「大津町子ども読書推進計画」の第二次推進計画のコンセプトである「より多くの子どもたちに読書のよろこびを伝える」ために、多くの事業の推進にあたっている。

健康保険課と連携し、離乳食セミナー事業の中にブックスタート事業を取り入れ、乳児期からの読書の関わりを推進しており、赤ちゃん向けおはなし会や、赤ちゃんタイム（毎週木曜日）を設定している。

また、家族で読書を楽しむ「家庭読書チャレンジ会」、自らが物語を創造する「創作絵本・物語作品募集」、「移動図書館車」、「団体貸出」など小中学校と連携し、図書館の利用促進につながる事業も行っている。移動図書館車では、平成27年度には22か所を回り、約6,500冊の貸出を行い、遠方の子どもたちにも利用できる環境作りに貢献している。

この他にも、子ども向け行事として、人形劇や音楽コンサート、工作教室、一日司書体験等を開催し、子どもたちが、図書館に親しみを持ち、身近感じられるような取組も行っている。



赤ちゃん向けおはなし会



移動図書館車での貸し出し説明の様子

(3) 団体

① 和水お話の会（代表 廣田 須美子 会員数14人）

平成22年から活動を始め、現在15人体制で活動している。

子どものおはなし会「土曜よみよみの会」では、大型絵本や紙芝居、英語で楽しむお話等の読み聞かせや、子どもから大人まで楽しめる手遊び、パネルシアターなどのプログラムを行っている。命を考える紙芝居や、小道具を使ったお話、ゲーム等もあり、毎回様々な工夫がなされている。

また、町教育委員会の後援を受け、「和水子ども読書フェスティバル」を毎年開催している。子ども向けにみんなで童謡を歌うプログラムや、ゲストを招いて日本の名作を語りと演奏で行うイベントを行ったりと読書活動の推進に貢献している。このフェスティバルは、様々な世代間の交流の一助も担っている。

その他、「大人のための文学講座」を毎月1回以上（平成27年度は14回）開催し、大人でも楽しめる読書イベントも開催したり、「読み聞かせ講座」を開催している。

読み聞かせやイベントの時にはアンケートを実施し、次回に向けて改善に取り組み、より良い読書活動への働きかけができるように心がけている。



読書フェスティバル



土曜よみよみ会